

地域に寄り添い、街をともに考える、コミュニケーション誌

JFM だより

Vol. 45

March
2023

滋賀県
彦根市

市民が集う “まちなか交流の拠点”



INDEX

- 01 融資がつむぐまちづくり
- 05 地域のために がんばる公営競技
- 07 JFM TOPICS
- 11 利用してみよう! 地方支援業務
- 15 みんな気になる、お金のこと
- 17 わたしのシゴト わたしのジモト
- 18 機構からのお知らせ
- 19 私たちもJFM債買っています!!
- 19 編集後記



金融で地方財政を支え 地域の未来を拓く
地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

JFMの貸付事業

JFMでは、長期かつ低利な資金を地方公共団体に融資することで、地方公共団体の財政の健全な運営及び住民福祉の増進に貢献しています。

詳細はp.03



PRO-SEED ARENA HIKONE

プロシードアリーナHIKONE

豊かな自然や歴史遺産と、
新幹線でのアクセスの良さを併せ持つ滋賀県彦根市。
2025年に彦根市を主会場として開催される
国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向け、
スポーツと文化活動の
両方を楽しめる施設がオープンしました。





まちなか交流ラウンジ*計6,000冊の雑誌や漫画、絵本などを無料で読むことができるスペースとなっています。



コワーキングスペース*無料でテレワークなどに利用できるスペース。クラウドファンディングで資金を募ってつくられました。



休憩スペース*2つの棟をつなぐ通路で、飲食が可能。パネルでの展示を行うこともあります。



弓道場*遠的場・近的場どちらもあり、国スポでも試合会場として使用されます。



スポーツラウンジ1*京都駅の大階段がモデルの、メインアリーナへの階段が目を引くラウンジ。大会があるときには、選手や観客が階段に座って談笑しています。



多目的ホール*410席の可動式の客席があり、吹奏楽などの公演が行われています。



トレーニングルーム*彦根市民と湖東圏域住民は2時間400円〜と、低価格で利用できます。



こどもの庭*ユニバーサルデザインを採用した遊具。障がいのあるお子さまも安心して遊んでいただけます。



オープニングイベント
2日間にわたって開催し、合計5000人の方にお越しいただきました。スポーツ体験などのイベントが行われ、大盛況となりました。

スポーツと文化が融合する交流施設

プロシードアリーナHIKONEは、市民の健康・福祉の増進をサポートする交流施設です。彦根城近くにあった市民体育センターと、もともとこの土地にあった文化施設を合併し、2025年に行われる第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会(わたSHIGA輝く国スポ・障スポ)に向けて整備されました。プロシードアリーナHIKONEではハンドボールと弓道、ひこねスーパーカラム、SOバドミントンが開催されます。

プロシードアリーナHIKONEの最大の特徴は、スポーツ施設と文化施設の両機能を備えているところです。スポーツ棟には、観客席2,752席を有するメインアリーナやトレーニング室、ダンス室などの施設が揃っています。文化施設のあるまちなか交流棟には、コンサートも行える多目的ホールや、休憩や読書にご利用いただけるまちなか交流ラウンジなどがあり、どちらの棟も幅広い世代の市民の皆様にご利用いただいています。

プロシードアリーナHIKONE 概要 所在地:滋賀県彦根市小泉町640番/竣工:令和4年6月/敷地面積:32,488.44㎡/構造:3階建、鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)

INTERVIEW

市民が集う“まちなか交流の拠点”

スポーツ棟とまちなか交流棟の2つの棟から成るプロシードアリーナHIKONE。彦根市スポーツ振興課で、施設整備を担当している馬場俊雄さんに、改修までの経緯や今後の展望などを伺いました。



彦根市 スポーツ振興課
新市民体育センター整備推進室
馬場 俊雄 課長

▶▶ 誰もが楽しめる施設づくりとイベントの開催

2022年12月に供用を開始したプロシードアリーナHIKONE。スポーツ教室の開催などによる健康・体力づくり拠点、誰もが楽しめる市民の交流拠点、災害時の都市防災拠点という3つのコンセプトのもと建設されました。

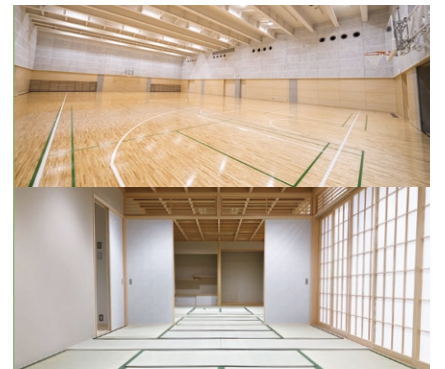
大規模施設であるプロシードアリーナHIKONEでは、施設運営を委託する指定管理者制度を導入して民間会社と契約しており、スポーツ・文化に関連するさまざまなイベントを開催しています。幅広い世代の方に参加していただき、球技やダンス、ヨガなどのスポーツ教室をはじめ、英会話やパソコン講座などの文化教養講座も人気です。

また、子どもや障がいを持った人でも安全に利用できるよう、遊具にユニバーサルデザインを採用したり、ゴールボールやボッチャ、シッティングバレーなどの障がい者スポーツ用の備品を揃えるなど、バリアフリーな環境を整えています。

▶▶ 周辺地域からも人が集まる活気あふれる施設へ

建設にあたっては、JFMの「地域活性化事業債」を財源として活用しました。プロシードアリーナHIKONEは彦根市有数の大型事業であり、財政負担の軽減という観点から、長期的に低金利でご融資いただけたところが決め手となりました。また、地方公共団体に長年融資しているという信頼性も魅力に感じた部分です。

今年2月には、滋賀県をホームタウンとして活動するプロバスケットボールチーム「滋賀レイクス」の公式試合を2日間にわたり行いました。今後もさまざまなスポーツの大会を誘致し、全国から人が集まる活気ある施設運営を行っていく予定です。また、彦根市周辺の湖東圏域(愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町)の住民の方にも足を運んでいただきたいと考えています。湖東圏域の住民の方も市民と同額で利用できるため、彦根市内に留まらず、地域全体で施設を盛り上げていけるような取組をこれからも行っていきます。



* プロシードアリーナHIKONEの施設予約状況

各施設の予約は半年前から受け付けていますが、メインアリーナはすでに約半分ほど予約で埋まっている状況です。今後も、多くの市民の方に利用していただけるよう、施設管理を行っていきます。

本件で活用いただいた制度 地域活性化事業

地域の経済循環の創造に資する事業及び活力ある社会経済を維持するための拠点である連携中枢都市圏構想の推進に資する事業等、地域の活性化に向けた基盤整備事業を対象として貸付けを行います。

JFMスタッフ Message

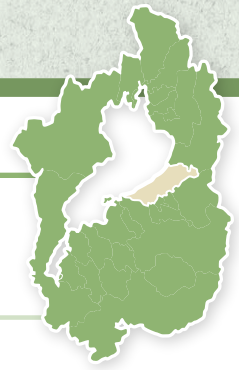
今回ご紹介した地域活性化事業につきまして、令和3年度においては、全国の地方公共団体に対し、総額71億円の貸付けを行いました。JFMでは、借入条件の検討をサポートするセルフチェックシートや償還年次表シミュレーションの利用促進、借入手続きのさらなる簡素化等、機構資金を活用しやすい環境の整備に取り組んでいます。

借入事務にあたり、ご不明な点などありましたら、お気軽に融資部各県域担当までご相談ください。



融資課 滋賀県担当
二熊 航平

滋賀県彦根市のまちづくり



若い世代が住み続けたくなるまちづくりを進めています。

彦根市では、「歴史と文化を紡ぎ、未来を創造する、市民一人ひとりが輝くまち彦根」を目指してまちづくりを進めています。彦根城の世界遺産登録に向けた推進活動や、人口減少を防ぐための移住定住促進は、特に力を入れている取組です。定住支援の施策の1つに、市内の大学の卒業生がそのまま地元で就職した場合に奨学金の返済を支援する制度があります。若い世代の流出を防ぐとともに、より多くの方に移り住んでいただくため、さまざまな施策を講じています。

行政 Pick Up !

移住者を支援する「移住コンシェルジュ」

彦根市では移住促進に力を入れています。新たな移住希望者を、彦根市への移住経験者「移住コンシェルジュ」がサポート。希望に沿った移住プランの提案や、彦根市の案内など、移住希望者一人ひとりに寄り添った伴走型の支援を行っています。



庁舎探訪

彦根市役所の庁舎を訪問しました。職員の皆様の業務の様子などをレポートします。



令和3年に完成した、まだ新しい彦根市役所の本庁舎。災害時には対策業務の拠点となります。



新庁舎開庁にあたり、複数の施設に分散していた窓口を統合。総合案内も設置し、窓口のワンストップ化を図りました。



彦根市 文化スポーツ部と企画振興部の皆さん



彦根市は、周囲を琵琶湖と鈴鹿山系に囲まれ、四季折々の情景を楽しめる、自然豊かなまちです。江戸時代は彦根藩35万石の城下町で、産業・政治の中心地として発展してきた文化的な面も持ち、貴重な歴史遺産も数多く存在しています。



[人口]

111,528 人



[世帯数]

50,122 世帯



[面積]

196.87 km²

(令和5年2月末現在)



400年の歴史を持つ「彦根城」



江戸時代の城下町をイメージ「夢京橋キャッスルロード」



彦根市の食材を使用「ひこね丼」



言わずと知れた彦根市のキャラクター「ひこにゃん」

©彦根市